

郷土愛を紡ぐ、郷土教材の作成について

高松市立塩江中学校 林 智恵

1 昨年度の取り組みと今年度の取り組み

昨年度は、「ふるさと塩江を愛し、将来への夢や希望を持ち、自ら学びともに高め合う生徒の育成」という学校教育目標の元、相互評価や自己評価を取り入れながら授業を行ってきた。「畏敬の念」や「遵法精神」の道徳的価値を扱った授業での生徒のワークシートや授業後の抽出児の聞き取り調査を行うことで、指導と評価の一体化や、生徒自身が行う相互評価や自己評価の有用性を探った。本年度は、学校教育目標の「ふるさと塩江」を愛する生徒の育成に役立てられるような教材作成に取り組んだ。

2 アンケートの実施

7月に学校の生徒、教員に「ふるさと塩江度アンケート」を行った。結果から特徴的な部分として「塩江の特産品を知っているか」や四季の名所を聞く質問に対する生徒の回答が挙げられる。全員の生徒が「炭谷ごぼう」や「タカネルビー」「茶」など、何らかの地元の特産品や「岩部神社の大イチョウ」などの観光スポットを記していた。これは、小学生の総合的な学習の時間「ねむの木学習」で行ってきた地域や地域の人との交流や体験学習等が大いに影響していると考えられる。また、教員でも、学校に長く勤務した教員ほど地元の詳しい回答が得られる結果となった。このことは、塩江小・中学校が9年間を系統立てて行っている「ねむの木学習」「やまなみ学習」という総合的な学習の時間の充実があるからだと考えられる。

3 教材への思い

そこで、塩江地域を題材とした教材を作成し授業を行うことを目標に、今年度は「合歓の木」という中学生用の教材を作成した。「合歓(ねむ)の木」という木には、人と人が喜び合うという意味が込められており、ふるさととは土地だけではなく、人とつながりでもあることを踏まえた作品を作りたいと考えてできた作品である。塩江から離れて暮らす大学生の主人公恭平が、祖父の死をきっかけに帰郷し、祖父との思い出を回顧しながら、郷土、また、家族とのつながりを改めて感じる物語である。作品の中には、塩江町のシンボルでもある蛍や合歓の木はもちろん、カジカや祭りなどのふるさと塩江を感じられる情景描写を散りばめた。また、塩江中学校に長く勤務している美術科の教員に挿絵を入れてもらうことができ、作品がより豊かなものとなった。

4 教材の感想からの課題

小・中の教員や様々な人から感想を聞くことができた。祖父との思い出の場面や合歓の木にはそのような意味があったことを初めて知った、感動した。という感想があった一方で、主人公が喋りすぎているのではないか、また、郷土愛ではなく、家族愛の価値にならないかなどの指摘もある。

確かに、発問によっては家族愛ととらえた授業も可能であると考えられるため、中心価値についての議論の余地があることから、授業では、生徒の感じたことを拾い上げ、どのような価値を持って読んだのかを調べるための発問を考え指導案を作成した。

5 授業の実施と今後

授業は、中学校3年生14名に、12月5日実施(詳細は当日の発表で)。

聞き取り調査も行いたいと考えているので、調査後は、教材の改善を模索していきたい。

ふるさと塩江度アンケート

ふるさと塩江度アンケート 調査結果

1. 塩江の特産品を知っているか
2. 塩江の名所を知っているか
3. 塩江の観光スポットを知っているか
4. 塩江の歴史を知っているか
5. 塩江の文化を知っているか
6. 塩江の自然を知っているか
7. 塩江の伝統行事を知っているか
8. 塩江の方言を知っているか
9. 塩江の方言を知っているか
10. 塩江の方言を知っているか
11. 塩江の方言を知っているか
12. 塩江の方言を知っているか
13. 塩江の方言を知っているか
14. 塩江の方言を知っているか

Table with 5 columns: Question, 1st year (10 people), 2nd year (14 people), 3rd year (14 people), Total (48 people). Rows include questions about local products, landmarks, and dialect.

